

陽気だより

養徳社

検索

ホームページからご覧いただけます

No24

2009. 3. 15

第三号(24年7月号)から

『陽気』は、昭和24年5月の創刊、今年で60年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事から振り返っていきます。



奥さん天下?

記者 さて、今日はアメリカの女性生活について、アメリカ帰りの先生方からいろいろお話を伺いたいと存じます。目下朝日新聞に出ているブロンデイ、また以前のジグスト、マギーなどの漫画をみますと、アメリカではレディ・ファーストといいますが、主人が奥さんの尻にしかれているのが多いように思いますが、あれは相当誇張があるのでしょうか、それとも、アメリカの家庭では、だいたいああいう風

なのでしょうか？
橋本 そうでもないですね。男女の権限をはっきり認め合って、お互いに人格を尊重していますね。大統領でも小使でも、役所では大統領であり小使ですが、家に帰れば同じ人間として扱われます。アメリカだって家庭ではやはり主人は主人、奥さんは奥さんです。
田代 あのブロンデイの漫画は、あまり女性の生活を出しすぎているが、しかし普通アメリカでは、年をとった老人が男女手をつないで街を歩いているのは、年寄りのくせに何時までもじゃらじゃらしているというのではなくて、女は弱いもの、それが年をとれば一番いたわってやらねばならないという考えからで、誰も何ともいいません。かえってやさしい主人だと見るのです。

の漫画は、あまり女性の生活を出しすぎているが、しかし普通アメリカでは、年をとった老人が男女手をつないで街を歩いているのは、年寄りのくせに何時までもじゃらじゃらしているというのではなくて、女は弱いもの、それが年をとれば一番いたわってやらねばならないという考えからで、誰も何ともいいません。かえってやさしい主人だと見るのです。
橋本 それはアメリカの歴史から来たのだと思うね。アメリカの開拓にメイフラワーで

欧州から来たとき、男より女が少なかつたので、女を大切にした。西へ西へとインディアンを征服して行き、荒野を開拓するのに、家庭は一つの城塞であり、家庭を大切に、女を大切にせざるを得なかつたのです。
田代 それで婦人の役割が非常に大きかつたのです。ブロンデイも、その婦人の役割を誇張したものです。日本人がそれをそのまま受け入れては困ります。アメリカの家庭でも、主人は主人、奥さんは奥さんで、二人連れだつて外へ



出て、帰ってくると奥さんはすぐエプロンをかけて台所へかけこむ、主人はソファアでのんびりと新聞を読んでいる、といった状態です。
記者 それで安心しました。(笑声)

橋本 それでも忙しい時は主

明るい台所

人も手伝いますよ。それに台所なんかちゃんと設備がととのつていて、主人が手助け出来るようになっていきます。ガス、電熱、電気冷蔵庫、電気洗濯機というふうには道具が揃つていて、戸棚が常に実用向きに整理されているので、日本の台所のように、やれ包丁がどこにあるのか、塩がどこにあるのか、主人にはさっぱりわからんというようなことがないのです、手伝うにも簡単です。(後略)

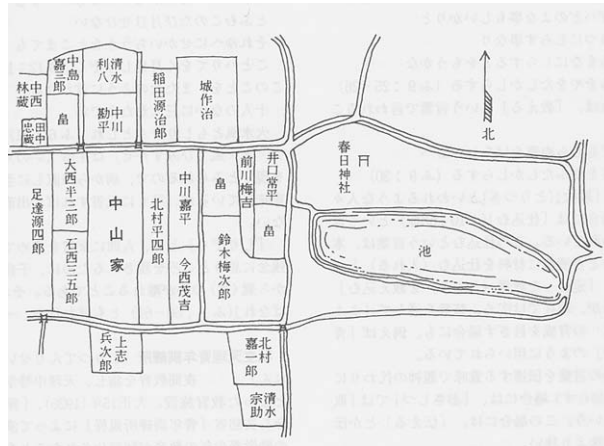
とんち算数(答えはウラ)

- ①二つ買えば三十円、三つ買えば四十円のリンゴを、一つだけ、一番安く買うにはどうしたらいいでしょう。
- ②卵を一つゆでるのに、十五分かかります。五つゆでるのに、何分かかりますか？
- ③二に割ると、3になり、0になり、4になる数字はいくつでしょうか？
- ④零小数点10と零小数点1は、どちらが大きい数ですか？
- ⑤一羽の鶏を、五人で仲よく分けるには、どうすればいいでしょう。

せきじつ
昔日のおぢば周辺

壮大な神殿に神苑が広がるおぢば・かんろだいの周辺は、教祖ご在世当時はどのような様子だったのだろうか……。

中山家の西、二軒隣りに住



元庄屋敷図一部（明治10年頃）『改訂天理教事典』より

ぐらゐの家で、本当に淋しいところだった、という。

——「私の家の向いも、中山さんの家の向いもみんな畠で見晴らしがよろしかった。中山さんのまあ前のずっと向うの街道（布留街道・今の天理

んは、明治二年ごろ生まれである。

「庄屋敷村」は二十二、三軒

志（兵次郎さん・凶参照）の家があっただけで、布留山（石上神宮はその西北にある）や（南東の）竜王山（天

本通）のきわに、……水車がかかっていた。綿種をついて油を作る所で、毎日どんつき音を立てていた。中山家の前には水車と、その北側上

理市と桜井市の境）が見通せた。毎晩狐が鳴いて、本当に淋しいところだったという。梶さんは、足達源四郎（照之丞）さんの次女。教祖が三十一歳のときに預かり、乳を飲ませて育て、黒瘡瘡で命のないところを、わが子の命に代えてもと祈りたすけられた照之丞（源四郎）の子である。源四郎さんが生まれるまでに、足達家では次々と五人も子どもが亡くなっていった。そして生まれたのが、源四郎さんだった。

明治十九年、現身を隠される前年に、八十九歳の教祖は足達家へ遊びに行かれた。五十九歳の源四郎さんをおんぶして、庭を往復されたという話がある。それは、婿養子をとった源四郎さんの娘に、男の子が生まれた年だった、という。

（稿本天理教教祖伝）『御存命の頃』高野友治著・道友社 参照）

「陽気」創刊60年記念出版

道の八十年

松村吉太郎自伝

初代真柱様との強い絆のもと 一派独立請願運動 教祖四十年祭 倍加運動など 天理教の歴史とともに生き抜いた信仰軌跡

改訂新版

4月18日発売

松村吉太郎 著

（高安大教会初代会長）

四六判並製 400頁

定価＝1,680円（税込） 千200

図書出版 養徳社

天理市川原城町388

☎(0743)62-4503

http://www12.ocn.ne.jp/~youtoku/

おかげさまで60年

『陽気』創刊60年の年(平成21年)にお申込の方に限り「特別購読料」でお読みいただけます。ぜひこの機会に 身近な人にお勧めください。

—創刊60年特別購読料—（1部送料共）

半年分…1,300円 1年分…2,400円

2年分…4,500円 3年分…6,500円

4年分…8,500円 5年分…10,000円

お申込は→☎0743 (62) 4503まで

「陽気」創刊60年記念式典

平成21年4月25日午後2時

おやさとやかた南右第2棟

陽気ホール

記念講演

陽気な人生観

藤本 義一（作家）

養徳社 TEL 0743 (62) 4503

養徳社 よもやま話

○……毎月の「陽気」発送作業には、バイトを頼んでいる。天理大学の四年生が中心となっているが、卒業が近づくとつれて新人が増え大変になる。後日、先輩に作業を覚えてもらうために、引き継いでくれていたことを知った。感謝、感謝である。

○……購読切れの個人読者に、創刊60年のお礼に見本誌を送った。中には十年の空白もあり不安もあったが、感謝と読者を増やしたい思いで発送。転居先不明での返送。その中で再度申込と、嬉しいお客様の声をいただいた。お電話くださったれば、見本誌を送ります。お勧めください。

①初め三つ四十円で買い、二つ返して三十円もらえば、一つ十円になります。②一度にゆでると十五分で全部ゆでます。③8で割ると0.2つになり、算術的に2で割ると0.4です。④同じです。0.10100.1 ⑤すき焼き。五人で仲よく食べられます。

広告を載せませんか

ようぼくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか？ 料金は、記事中で一回二万円から。

詳しくは養徳社広告係まで ☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用ください。ますよう、お願い申し上げます。

養徳社